

栄町の歴史

第3号



羅隠院

栄町の歴史

第3号

栄町の歴史——第3号

目次

□ 研究論文

布鎌大師について

小倉 博……………5

布鎌大師並びに四郡大師の調査報告

—石造物を中心として—

高塚 馨……………25

□ 研究ノート

麻生尋常小学校

矢島 毅之……………93

安食村と木下河岸の争論について

—「下総国安食村通船留書」を読んで—

栄町古文書学習会

(今井 康之)……………99

□ 歴史随想

ふかまの風土記(稿本抄)

田代源之助……………109

農家のくらしから

石井 徳松……………112

池野家の古文書収録を終えて

山本とみ子……………119

□ 町史編さんの記録(3)

……………123

研
究
論
文

SAKAE MACHI NO REKISHI

The history of Sakae town

No. 3

March 2000

CONTENTS

Articles

- On Fukama-daishi: a pilgrimage around Fukama area OGURA Hiroshi
An investigation into stone figures of Fukama-daishi and Shigun-daishi
..... TAKATSUKA Kaoru

Research Notes

- A note on Aso primary school YAJIMA Takayuki
Dispute between Ajiki village and Kioroshi-gashi: an analysis of Ajiki
village document file on shipping IMAI Yasuyuki
(The Studying group of Archival materials in Sakae-machi)

Essays of History

- Fukama topography: an extract from the draft TASHIRO Gen'nosuke
Folklore of a farmer's household ISHII Tokumatsu
A report on arrangement of Ikeno family papers YAMAMOTO Tomiko

Progress of the project(3)

SAKAE MACHI

(Sakae Town History Compilation Committee)

布鎌大師について

小倉 博

はじめに

真言宗の開祖、弘法大師空海を信仰する習俗の一つに大師参りがある。もともとは四国八十八か所の遍路巡りが起りであるが、江戸時代中期以降、四国遍路の普及にともない、その霊場（札所）を模した新しい四国八十八か所のコースが各地につくられ、周辺村々は宗派を問わず一緒に巡拝するようになった。これを□□大師とか□□八十八か所・大師講・十善講などというっている。

栄町の大師講には、町域の東側に設定された成田組十善講と、町域の西側に設定された四郡大師（別名・布川組八十八か所）、それに布鎌大師の三つがある。成田組十善講は、現在の成田市を中心に香取郡下総町・神崎町、茨城県稲敷郡河内町・東町・新利根町・桜川村に広がるもので、栄町では安食・麻生・竜角寺・須賀・須賀新田・北辺田・興津・矢口などの地区が札所となっている。これに対し四

郡大師は、下総国の印旛・埴生・相馬郡と常陸国の河内郡の四郡に広がるもので、栄町では安食と旧布鎌村が札所となっている。この四郡大師をもとに、旧布鎌村（以下、布鎌と略す）に設定したのが布鎌大師である。

栄町史編さん委員会民俗部会では、町域だけに設定されている布鎌大師に注目し、その聞き取り調査と体験調査を行った。本稿はそれをまとめたものであるが、まだ完全に終了したものではなく、『栄町史民俗編』に向けての中間報告といえる。

起源

布鎌大師の起源については不明であるが、布鎌に六つの札所がある四郡大師に参加していた布鎌の人たちが、四郡大師は広い地域なので数日かかることから、一日でまわれ布鎌単独の八十八か所の霊場を設定したとされる。とすると四郡大師が文政元年（一八一八）の創設とされているので、布鎌大師はそれ以降のことになる。一説には安政七年（万延元年〓一八六〇）四月に、中谷新田（現中谷）の鈴木弥市右衛門・太郎右衛門新田（現布太）の野口太兵衛・押付新田（現押付）の加藤治右衛門・北新田（現北）の中久

大正14年 小作年貢米取立覚帳
 昭和24年 稲帳
 池野満太
 池野義雄
 これでうち切ります。

この古文書は荒井さんのお考えと池野家の話し合いの上で故郷の新潟県立文書館に寄託する事になりました。

池野の孫達は今はまだ若い子供達ですが、成人になり、壮年になり池野の先祖の歴史に興味を抱くようになってくれば、此の文書館を訪ねてくれたらどんなに嬉しいことでしょう。

古文書の一こま一こまを繕いてゆきますと故人が目の前に居るような親近感が湧いて来ます。古文書には故人の魂が生きて居るかも知れませんね。

四、

最後にとっても残念な事が一つあります。

それは昨年亡くなりました池野義雄祖父さんのことで御座います。

早稲田実業出の誇り高き頑固爺さんのようでした。

新潟の自慢話を楽しそうに話して聞かせてもらいました

が、こんな筋の通った立派な古文書があれば、もっと、沢山自慢話をして欲しかったと悔やまれてなりません。

娘達の結婚式を田舎でも披露するといっているので私達両親も招かれて出席しました。山村の小萱村でしたが藁葺きの大きな家で大勢の人達が手伝いに来ていてそれは賑やかな状況でした。お祖父さんを庄屋さんと呼び丁寧な態度なのに成程と思いました。

古文書を借りるについて、都合の悪いことでも出てきたら困るとの考えか直接には見せて貰えませんでした。(古文書の中には何処の家庭でも知られたくないことは当然ありますがそれは公にはしませんから大丈夫です)と始めに荒井さんから聞かされていましたが、文書には別に何一つ都合の悪い事はありませんでした。

お祖父さん！ 新潟のお話をもっと、もっと聞いて置けばよかったです。残念です。

終り

(栄町安食台六丁目)

町史編さんの記録 (3)

●平成八年

- | | | | | | |
|------|-----------------------|--------------------------------|------------------------------|----------------|-----------------------------|
| 3・4 | 近世部会調査 | (南部)、香取神社(請方)、水神社(北)、香取神社(横須賀) | 4・10 | 資料調査(民俗) | |
| 3・6 | 近世部会県外調査 | | 11 | 成田山十善護国講大廻り大師 | |
| 3・7 | 秋葉光夫家文書(日本大学文学部史学研究室) | 北辺田区有文書、矢口・湯浅家文書 | 4・14 | 資料調査(文化財社寺・民俗) | |
| 3・12 | 町史編さん委員会視察研修 | 3・23 | 民俗部会調査 | 子舞(矢口) | |
| | (埼玉県八潮市立資料館・八潮市役所庶務課) | 3・26 | 鈴木公男家民家調査(脇川) | 民俗部会聞き取り調査 | |
| 3・13 | 近代部会調査 | 3・27 | 第3回町史編さん委員会会議 | 長澤チツ(請方) | |
| 3・14 | 東海新報マイクログ版 | 3・28 | 矢口・湯浅家文書 | 資料調査(民俗) | |
| | 日々雇用職員契約(31) | | 東海新報マイクログ版 | 鈴木公夫家民家調査(脇川) | |
| 3・18 | 近世部会調査 | 4・1 | 日々雇用職員契約(9・30) | 近世部会調査 | |
| | 麻生・加藤家文書 | | (遠藤こと、小池久美子) | 龍角寺文書 | |
| | 資料調査(近世) | 4・2 | 廃棄行政文書収集 | 近世部会調査 | |
| | 千葉大学歴史同好会「利根川変遷史1・2」 | 4・3 | 廃棄行政文書収集 | 北辺田区有文書 | |
| 3・19 | 文化財社寺部会調査 | | 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(以下「全史料協」とい | 4・23 | 印旛郡市地域史料保存利用連絡協議会(以下「印史協」とい |
| | 天神社(北辺田)、稲荷神社 | | う) 関東部会 | 4・24 | 役員会 |
| | | | | | (佐倉市史編さん室) |
| | | | | | 近世部会調査 |

編集後記

本誌2号が刊行されてから4年が経過しました。この間に、町史編さん室から総務課町史編さん室へ、そして現在は教育委員会に所属して社会教育課町史編さん係に事務局を置いています。

さて、今回は町史編さん委員会民俗部会の調査成果を中心とした新四国八十八カ所「布鎌大師」特集の感があります。

小倉氏には、聞き取り及び体験調査を踏まえてのご報告を、高塚氏には、大廻り大師と呼ばれる「四郡大師」との比較、そして各札所における弘法大師像、記念碑などの石造物からのご報告をそれぞれしていただきました。

次に矢嶋氏には、従来殆ど存在の知られていなかった麻生尋常小学校設立の経緯などについてご紹介いただきました。

栄町古文書学習会には、一年間の古文書学習の成果を今井会長にまとめていただいたもので、いわゆる町民の視点から江戸時代後期の「安食河岸」周辺の様相を描き出し、かつ木下河岸との舟運による成田山参詣客をめぐ

る議論の全体像を紹介されています。なお、会員の皆様には、日頃より栄町史編さん事業に対しご理解、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

また、田代氏の数ある遺稿から「布鎌大師」関係部分について抄出させていただきました。本稿は、布太区有所蔵で表紙に「昭和五十三年一月／ふかまの風土記／田代黙水誌／布太区殿」とあり布太区に対して献本したものと思われます。

石井氏には、民俗部会の調査の過程で幾度と無く聞き取りをさせていただき、ありがとうございました。本稿は自ら執筆したものを平成七年四月にご寄稿いただいたものです。安食木塚地区(三区)のくらしの様子が偲ばれます。

山本氏は、栄町に引越された後、地域の歴史・文化に早くから興味を持たれ公民館講座に参加され、「古文書解説」に魅せられ整理保存作業を実践された感想を綴っていただきました。

今後とも栄町に関する歴史資料の提供をお願い申し上げます。

【表紙の窓】

版画淡彩「多宝院」(一九八九) 石井清明(一九一九—二〇〇〇)

栄町酒直出身で、本格的に版画を始めたのは退職された後のことだそうです。平成一年五月「第4回さかなおサロン石井清明版画展」(栄町を愛する女性の会酒直地区主催)で一堂に作品を公開され注目をあつめました。彩色されているものは希で郷土の風景ということで選ばせていただきました。

なお作者は、昭和三十七年から栄町役場に勤務され、昭和四八年産業課長、昭和五二年総務課長と要職を歴任された後、昭和五七年四月一日から昭和六二年三月三十一日まで栄町収入役を二期務められています。

栄町の歴史——第3号

平成十二年三月三十一日 発行

編集 栄町編さん委員会

発行 栄町

〒二七〇—一五九二

千葉県印旛郡栄町安食台一—二

TEL 〇四七六(九五)二二二

印刷 株式会社エリート印刷

〒三〇〇—二二二

茨城県牛久市柏田町三三五九

